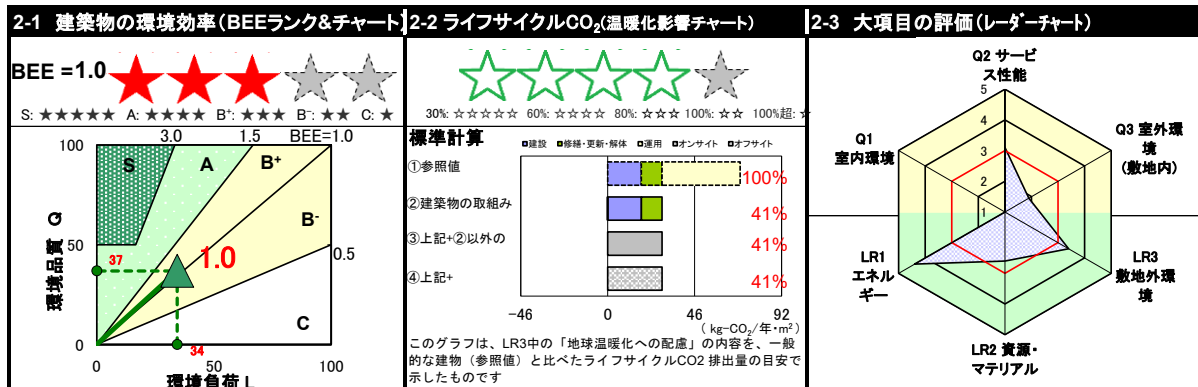
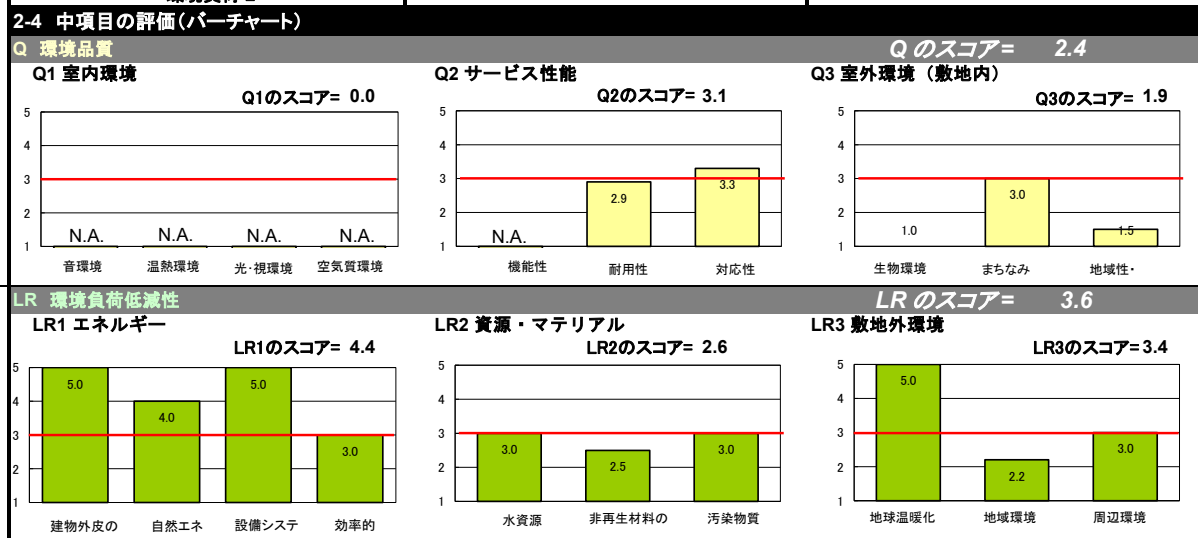


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三栄工業(株)本社21	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県豊田市高岡町東浦88-1他20筆	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	50 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,928 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	基本設計段階評価
竣工時期	2025年9月 予定	評価の実施日	2024年8月23日
敷地面積	23,535 m ²	作成者	株式会社GUIS 古澤
建築面積	5,319 m ²	確認日	2024年8月29日
延床面積	8,715 m ²	確認者	トヨタ&S建設一級建築士事務所 北川 幸尚



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
5.0	1.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
2.9	1.0

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3.1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2.2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性

LR-2.2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3.1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
巨栄工業(株)本社21

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		基本設計段階							
配慮項目	重点項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分	
				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質									2.4
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	3.0	-	-
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能				-	-	-	3.0	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	3.0	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	-	3.0	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	-	3.0	-	-
1.3 吸音				-	-	-	3.0	-	-
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
1 室温				3.0	-	-	3.0	-	-
2 外皮性能				3.0	-	-	3.0	-	-
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				3.0	-	-	3.0	-	-
2.3 空調方式				3.0	-	-	3.0	-	-
3 光・視環境									
3.1 昼光利用									
1 昼光率				3.0	-	-	3.0	-	-
2 方位別開口				-	-	-	3.0	-	-
3 昼光利用設備				3.0	-	-	3.0	-	-
3.2 グレア対策									
1 昼光制御				5.0	-	-	3.0	-	-
3.3 照度				3.0	-	-	3.0	-	-
3.4 照明制御				3.0	-	-	3.0	-	-
4 空気質環境									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質				3.0	-	-	3.0	-	-
4.2 換気									
1 換気量				3.0	-	-	3.0	-	-
2 自然換気性能				3.0	-	-	3.0	-	-
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	3.0	-	-
4.3 運用管理									
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能						0.44			3.1
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性				3.0	-	-	3.0	-	-
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	3.0	-	-
3 バリアフリー計画	独自			3.0	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	3.0	-	-
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-	-
3 内装計画				3.0	-	-	-	-	-
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性				0.5	2.9	0.52	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.3	0.33	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.09	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	5.0	0.15	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-
2.4 信頼性				0.1	2.2	0.19	-	-	-
1 空調・換気設備				3.0	1.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-
3 電気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-

主要な配管にB以上を使用し、Eは不使用

3 対応性・更新性			0.4	3.3	0.48	-	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			0.3	4.2	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			-	5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	3.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			-	3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.56	-	-	-	1.9
1 生物環境の保全と創出			-	1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			-	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	1.5	0.30	-	-	-	1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			-	2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	1.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.68	3.0	5.0	0.21		-	5.0
2 自然エネルギー利用			トップライト採用	3.0	4.0	0.11		-	4.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0	3.0	5.0	0.48		-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	2.6
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.5	0.63	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.21		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	1.0	0.21		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	3.0	0.25		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68		-	
1 消火剤				-	-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	3.0	1.00		-	
3 冷媒				3.0	-	-		-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			①		ライフサイクルCO2排出率41%	-	5.0	0.33	5.0
2 地域環境への配慮				0.3	2.2	0.33	-	-	2.2
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			独自	-	3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制			独自	-	3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制			独自	-	1.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	1.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	
1 騒音			独自	-	3.0	1.00		-	
2 振動			独自	-	-	-		-	
3 悪臭				-	-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制				-	3.0	-		-	
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	3.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30		-	

重点項目スコアシート

基本設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

三栄工業株式会社

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				5.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.23	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 三栄工業(株)本社21

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 対象外
Q2 サービス性能	主要な配管に耐用性の高い資材を使用し、更新性に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	階高7m以上を確保し、ゆとりのある空間を確保した。
LR1 エネルギー	BEI=0(太陽光設備採用) トップライト採用
LR2 資源・マテリアル	特になし
LR3 敷地外環境	広告照明の計画なし
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。